

ANTENNA SYSTEM AND PORTABLE RADIO EQUIPMENT

Patent Number: JP2000101333

Publication date: 2000-04-07

Inventor(s): SAITO YUICHIRO;; SAWAMURA MASATOSHI;; ITO HIROCHIKA

Applicant(s): SONY CORP

Requested Patent: JP2000101333

Application Number: JP19980266478 19980921

Priority Number(s):

IPC Classification: H01Q13/08; H01Q1/24

EC Classification:

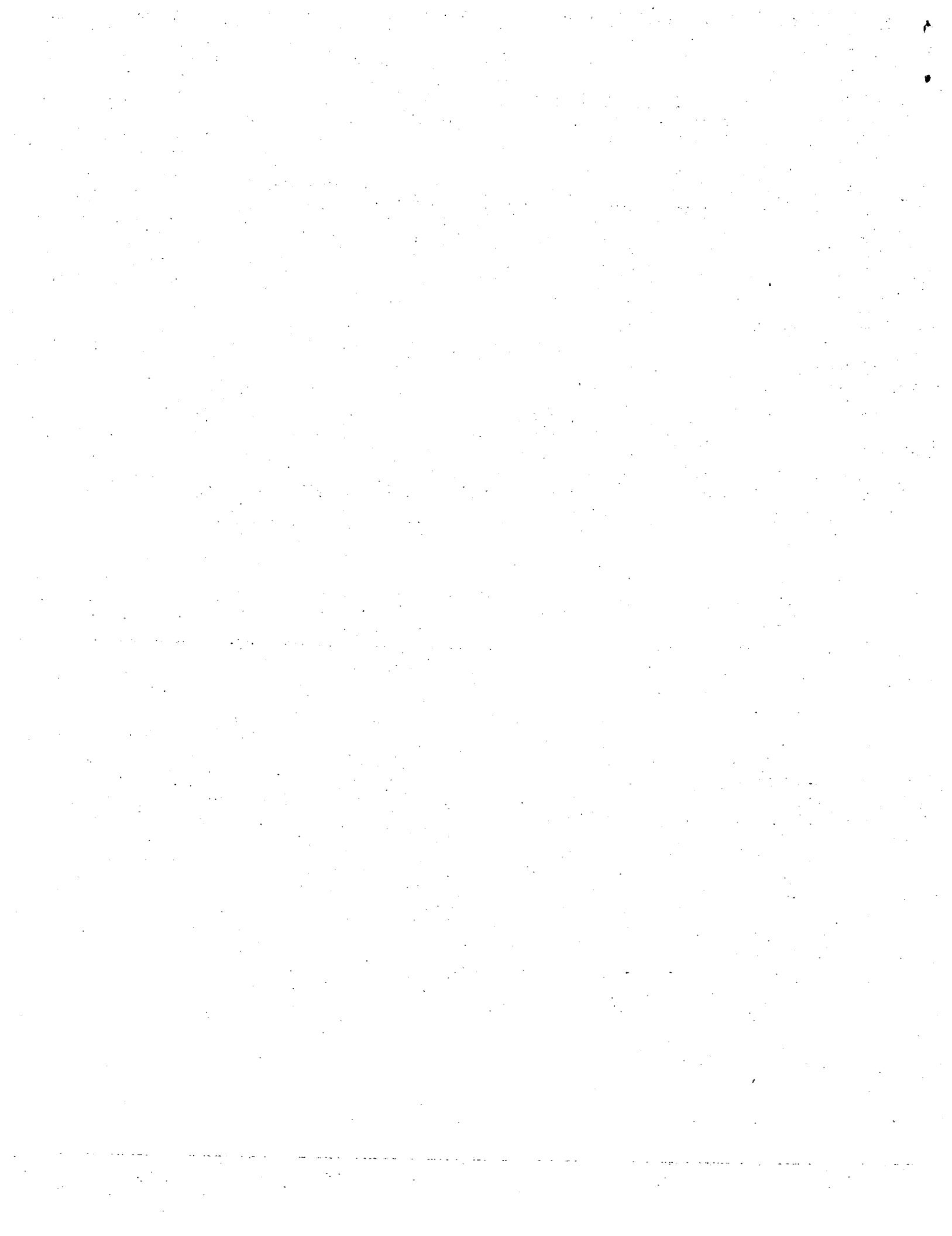
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an antenna system in which an antenna current leaked in a case is suppressed, absorption loss by human body is reduced and radiation efficiency is improved and to provide the portable radio equipment.

SOLUTION: This portable radio equipment is provided with a ground conductor plate 11, an antenna current leakage suppression conductor plate 12 placed in parallel, facing opposite to the ground conductor plate 11, a 1st short-circuiting vertical conductor plate 13 that short-circuits one end side of the antenna current leakage suppression conductor plate 12 to the ground conductor plate 11, a radiation conductor plate 14 that is placed in parallel facing opposite to the antenna current leakage suppression conductor plate 12, a 2nd short-circuit vertical conductor plate 15 that short-circuits one end side of the radiation conductor plate 14 to the plate 12, and a feeding section 13 placed at a prescribed position of the radiation conductor plate 14. In the case of configuring a one-side grounded microstrip antenna or a plate-shaped inverter F antenna, the antenna current leakage suppression conductor plate 12 reduces an antenna current which flows through the case to reduce the absorption loss by human body and to increase the radiation efficiency.

Data supplied from the esp@cenet database - i2



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-101333
(P2000-101333A)

(43)公開日 平成12年4月7日(2000.4.7)

(51)Int.Cl.⁷
H 01 Q 13/08
1/24

識別記号

F I
H 01 Q 13/08
1/24

マークー(参考)
5 J 0 4 5
Z 5 J 0 4 7

審査請求 未請求 請求項の数13 OL (全9頁)

(21)出願番号 特願平10-266478
(22)出願日 平成10年9月21日(1998.9.21)

(71)出願人 000002185
ソニー株式会社
東京都品川区北品川6丁目7番35号
(72)発明者 斎藤 裕一郎
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内
(72)発明者 濑村 政俊
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内
(74)代理人 100082762
弁理士 杉浦 正知

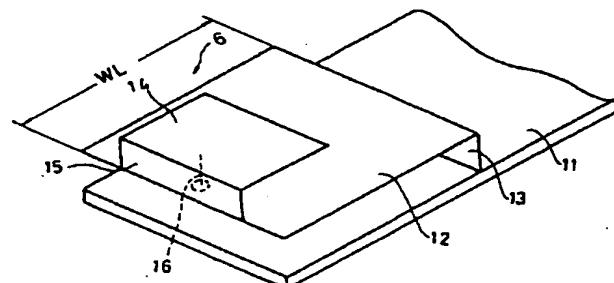
最終頁に統く

(54)【発明の名称】アンテナ装置及び携帯無線装置

(57)【要約】

【課題】 筐体中に漏洩するアンテナ電流を抑制し、人
体による吸収損失を減少し、放射効率を向上させるよう
にしたアンテナ装置及び携帯無線装置を提供する。

【解決手段】 接地導体板11と、接地導体板11に対
向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板1
2と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板12の一方の端辺部
を接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板13と、
アンテナ電流漏洩抑圧導体板13に対向して平行に配置
された放射導体板14と、放射導体板14の一方の端辺
部をアンテナ電流漏洩抑圧導体板15に短絡する第2の
短絡垂直導体板15と、放射導体板15の所定の位置に
設けられた給電部13とを設ける。アンテナ電流漏洩抑
圧導体板12により、片側接地マイクロストリップアン
テナや板状逆Fアンテナを構成する場合に、筐体を流れ
るアンテナ電流が減少し、人体により吸収損失が減少さ
れ、放射効率が増加する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 接地導体板と、
上記接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を上記接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板と、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、
上記放射導体板の一方の端辺部を上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に短絡する第2の短絡垂直導体板と、
上記放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなるようにした平面アンテナ装置。

【請求項2】 上記接地導体板と上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板との間に高誘電率材料を挿入するようにした請求項1に記載のアンテナ装置。

【請求項3】 上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板と上記放射導体板との間に高誘電率材料を挿入するようにした請求項1に記載のアンテナ装置。

【請求項4】 上記接地導体板と上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板との間に高誘電率材料を挿入すると共に、上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板と上記放射導体板との間に高誘電率材料を挿入するようにした請求項1に記載のアンテナ装置。

【請求項5】 接地導体板と、
上記接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、
上記アンテナ漏洩電流抑圧導体板の一方の端辺部を上記接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板と、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、
上記放射導体板の一方の端辺部を上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に短絡し、上記放射導体板の幅より狭い幅の第2の短絡垂直導体板と、
上記放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる逆F型アンテナ装置。

【請求項6】 上記接地導体板と上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板との間に高誘電率材料を挿入するようにした請求項5に記載のアンテナ装置。

【請求項7】 上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板と上記放射導体板との間に高誘電率材料を挿入するようにした請求項5に記載のアンテナ装置。

【請求項8】 上記接地導体板と上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板との間に高誘電率材料を挿入すると共に、上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板と上記放射導体板との間に高誘電率材料を挿入するようにした請求項5に記載のアンテナ装置。

【請求項9】 接地導体板と、
上記接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を上記

2

接地導体板に短絡する短絡垂直導体板と、
線状のアンテナエレメントと、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなるようにした線状アンテナ装置。

【請求項10】 上記接地導体板と上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板との間に、高誘電率材料を挿入するようにした請求項9に記載のアンテナ装置。

【請求項11】 電子部品が実装される基板が収納されてなる携帯無線装置において、

10 上記基板の一方の面に直接入出力操作される部品を配置し、
上記基板の他方の面にアンテナ部を配置し、
上記アンテナ部は、
接地導体板と、
上記接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を上記接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板と、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、
上記放射導体板の一方の端辺部を上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に短絡する第2の短絡垂直導体板と、
上記放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる平面アンテナの構成とされた携帯無線装置。

【請求項12】 電子部品が実装される基板が収納されてなる携帯無線装置において、
上記基板の一方の面に直接入力出力操作される部品を配置し、
上記基板の他方の面にアンテナ部を配置し、
上記アンテナ部は、

20 接地導体板と、
上記接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、
上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を上記接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板と、
上記導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、
上記放射導体板の一方の端辺部を上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に短絡し、上記放射導体板の幅より狭い幅の第2の短絡垂直導体板と、
上記放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる逆F型アンテナの構成とされた携帯無線装置。

【請求項13】 電子部品が実装される基板が収納されてなる携帯無線装置において、

30 上記基板の一方の面に直接入出力操作される部品を配置し、
上記基板の他方の面にアンテナ部を配置し、
上記アンテナ部は、
接地導体板と、
上記接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、

40 上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を上記接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板と、
上記導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、
上記放射導体板の一方の端辺部を上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板に短絡し、上記放射導体板の幅より狭い幅の第2の短絡垂直導体板と、
上記放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる逆F型アンテナの構成とされた携帯無線装置。

50 【請求項14】 電子部品が実装される基板が収納されてなる携帯無線装置において、

上記基板の一方の面に直接入出力操作される部品を配置し、
上記基板の他方の面にアンテナ部を配置し、
上記アンテナ部は、
接地導体板と、
上記接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、

上記アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を上記接地導体板に短絡する短絡垂直導体板と、線状のアンテナエレメントと、上記導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる線状アンテナの構成とされた携帯無線装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、携帯無線電話システムに用いて好適なアンテナ装置及び携帯無線装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、携帯無線電話、自動車電話のような移動体通信システムの進展には目覚ましいものがある。例えば、国内では、800MHz帯及び1.6MHz帯のデジタルセルラ方式の携帯無線電話システムや、1.9MHz帯のパーソナルハンディホーンシステム(PHS)のサービスが行なわれている。また、国外においても、GSM(Group Special Mobile)方式を代表とする複数のサービスが既に行なわれている。

【0003】このような移動体通信システムの携帯無線端末に用いられるアンテナとしては、従来、ホイップアンテナやヘリカルアンテナが用いられていた。ところが、ホイップアンテナやヘリカルアンテナでは小型化が困難である。このため、ホイップアンテナやヘリカルアンテナに代わって、片側短絡マイクロストリップアンテナや板状逆Fアンテナ等の平面アンテナが用いられるようになってきている。

【0004】図13は、マイクロストリップアンテナの基本構成を示す平面図及びそのA-A断面図である。図13において、101は放射導体、102は誘電体材料、103は接地導体である。接地導体103上に誘電体102が積層され、誘電体102上に、放射導体101がエッチング等により形成される。そして、放射導体101上の入力インピーダンスが給電系のインピーダンスと等しくなる位置に、給電点104が設けられる。

【0005】図14は、片側短絡マイクロストリップアンテナの構成を示す平面図及びそのA-A断面図である。片側短絡マイクロストリップアンテナは、上述のマイクロストリップアンテナにおける放射導体101の零電位面を、短絡導体105により、接地導体103と短絡させるようにしたものである。このようにすると、同一共振周波数で作動するにもかかわらず、その放射導体101の長さを、通常のマイクロストリップアンテナの長さの1/2とすることができる。

【0006】図15は、板状逆Fアンテナの構成を示す平面図及びそのA-A断面図である。板状逆Fアンテナは、短絡導体105の幅W_sを放射導体101の幅W_bより小さくしたもので、短絡導体105の幅W_sを小さくすることにより、共振周波数が低下する傾向を示し、小型化が可能である。また、短絡導体105の中心の放

射導体中心線からのオフセット量については、放射導体端部の端に設定した方が共振周波数が下がり、小型化に有利である。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】このような片側短絡マイクロストリップアンテナや板状逆Fアンテナは、小型、軽量化を図る上で有利であることから、近年、移動体通信システムの携帯無線端末に良く用いられてきている。ところが、片側短絡マイクロストリップアンテナや板状逆Fアンテナでは、伝送路の接地側が接地導体板に接続されており、この接地導体板は、通常では、基板の接地パターンや筐体に接続されている。このため、従来の片側短絡マイクロストリップアンテナや板状逆Fアンテナでは、筐体に多くのアンテナ電流が流れる。筐体中に多くのアンテナ電流が流れると、人体方向への放射が強くなり、人体の吸収損失が大きくなるという問題が生じる。

【0008】そこで、筐体中に漏洩するアンテナ電流を抑制するための部材を設けることが考えられる。ところが、携帯無線端末では、機器の小型、軽量化が重要である。このため、筐体中に漏洩するアンテナ電流を抑制するための部材は、大型のものであったり、機器の入力/出力操作に支障となるような所に配設されるものでないようにする必要がある。

【0009】したがって、この発明の目的は、筐体中に漏洩するアンテナ電流を抑制し、人体による吸収損失を減少し、放射効率を向上させるようにしたアンテナ装置及び携帯無線装置を提供することにある。

【0010】この発明の他の目的は、筐体中に漏洩するアンテナ電流を抑制するための部材により、機器の小型化に障害とならないようとしたアンテナ装置及び携帯無線装置を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明は、接地導体板と、接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、放射導体板の一方の端辺部をアンテナ電流漏洩抑圧導体板に短絡する第2の短絡垂直導体板と、放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなるようにした平面アンテナ装置である。

【0012】請求項5の発明は、接地導体板と、接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、アンテナ漏洩電流抑圧導体板の一方の端辺部を接地導体板に短絡する第1の短絡垂直導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、放射導体板の一方の端辺部をアンテナ電流漏洩抑圧導体板に短絡し、放射導体板の幅より狭い幅の第2の短絡垂直導体板と、放射導体板の所定の位置に設

けられた給電部とからなる逆F型アンテナ装置である。

【0013】請求項9の発明は、接地導体板と、接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を接続する短絡垂直導体板と、線状のアンテナエレメントと、アンテナ電流漏洩抑圧導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなるようにした線状アンテナ装置である。

【0014】請求項11の発明は、電子部品が実装される基板が収納されてなる携帯無線装置において、基板の一方の面に直接入出力操作される部品を配置し、基板の他方の面にアンテナ部を配置し、アンテナ部は、接地導体板と、接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を接続する短絡垂直導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、放射導体板の一方の端辺部をアンテナ電流漏洩抑圧導体板に接続する第1の短絡垂直導体板と、放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる平面アンテナの構成とされた携帯無線装置である。

【0015】請求項12の発明は、電子部品が実装される基板が収納されてなる携帯無線装置において、基板の一方の面に直接入力出力操作される部品を配置し、基板の他方の面にアンテナ部を配置し、アンテナ部は、接地導体板と、接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を接続する第1の短絡垂直導体板と、導体板に対向して平行に配置された放射導体板と、放射導体板の一方の端辺部をアンテナ電流漏洩抑圧導体板に接続し、放射導体板の幅より狭い幅の第2の短絡垂直導体板と、放射導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる逆F型アンテナの構成とされた携帯無線装置である。

【0016】請求項13の発明は、電子部品が実装される基板が収納されてなる携帯無線装置において、基板の一方の面に直接入出力操作される部品を配置し、基板の他方の面にアンテナ部を配置し、アンテナ部は、接地導体板と、接地導体板に対向して平行に配置されたアンテナ電流漏洩抑圧導体板と、アンテナ電流漏洩抑圧導体板の一方の端辺部を接続する短絡垂直導体板と、線状のアンテナエレメントと、導体板の所定の位置に設けられた給電部とからなる線状アンテナの構成とされた携帯無線装置である。

【0017】接地導体板に対向して平行に導体板を設け、この導体板と接続導体板とを短絡垂直導体板により接続し、この導体板に対向して平行に放射導体板を設け、この放射導体板を短絡垂直導体板により導体板に接続している。このため、片側接地マイクロストリップアンテナや板状逆Fアンテナを構成する場合に、筐体を流

れるアンテナ電流が減少し、人体により吸収損失が減少され、放射効率が増加する。

【0018】また、接続導体板に対向して平行に配置された導体板を設け、この導体板を短絡垂直導体板で接続導体板に接続し、導体板の所定位置で線状のアンテナエレメントを給電している。このため、ホイップアンテナやヘリカルアンテナを構成する場合に、筐体を流れるアンテナ電流が減少し、人体により吸収損失が減少され、放射効率が増加する。

【0019】また、基板の一方の面に、ディスプレイユニットやスピーカ、キーパッド等、ユーザにより直接利用される部品を配置し、基板の他方の面にアンテナ部を配置し、このアンテナ部を、接続導体板に対向して平行に導体板を設け、この導体板と接続導体板とを短絡垂直導体板により接続し、この導体板状に、放射導体板やアンテナエレメントを取り付けている。このように、ディスプレイユニットやスピーカ、キーパッド等、ユーザにより直接入出力操作される部品が配置される基板の一方の面とは反対側に、アンテナ電流漏洩抑圧用の部品を含めて、アンテナを構成する部品が配設されるため、小型、軽量化の障害とならず、また、使用時にユーザの頭部からの距離が長くなり、人体の影響が受けづらくなる。

【0020】
【発明の実施の形態】以下、この発明の実施の形態について図面を参照して説明する。図1は、この発明が適用された携帯無線電話端末装置に配設される基板の構成を示すものである。図1において、1は携帯無線電話端末を構成する電子部品が実装される基板である。基板1の一方の面1Aには、図1Aに示すように、スピーカ2、液晶ディスプレイユニット3、キーパッド4等の部品が取り付けられる。基板1の他方の面1Bには、図1Bに示すように、各種の電子部品5A、5B、5C、5D、…が取り付けられると共に、アンテナ部6が設けられる。

【0021】基板1には配線パターン（図示せず）が形成されており、スピーカ2、液晶ディスプレイユニット3、キーパッド4等の部品や、基板1に実装される電子部品5A、5B、5C、5D、…は、基板1に形成された配線パターンやケーブル（図示せず）により配線接続される。また、基板1には、全面にわたって接続パターンが設けられており、この接続パターンは筐体に接続される。基板1全体は、アンテナを構成する場合の接続導体板11として機能する。

【0022】図2は、アンテナ部6の構成を示すものである。図2に示すように、接続導体板11に短絡垂直導体板13が垂設され、短絡垂直導体板13の端辺に、導体板12の端辺が垂直に固定される。この短絡垂直導体板13により、導体板12は、接続導体板11に対して平行に支持される。更に、導体板12の他方の端辺部には、短絡垂直導体板15が垂設される。短絡垂直導体板

15の他方の端辺部が放射導体板14の一方の端辺部に垂直に固着される。この短絡垂直導体板15により、放射導体板14が導体板12に対して平行に支持される。放射導体板14の側縁部の所定の位置に、給電ピン16が設けられる。

【0023】このように、接地導体板11と、この接地導体板11に対向して平行に配置された導体板12と、導体板12の一方の端辺部と接地導体板11とを短絡する短絡垂直導体板13と、導体板12に対向して平行に配置された放射導体板14と、この放射導体板14の一方の端辺部と導体板12とを短絡する短絡垂直導体板15と、放射導体板14の側縁部の所定の位置に設けられた給電ピン16とにより、片側短絡型マイクロストリップアンテナが構成される。

【0024】図3に示すように、スピーカ2、液晶ディスプレイユニット3、キーパッド4等の部品や、電子部品5A、5B、5C、5D、…が実装されると共に、その先端に、片側短絡マイクロストリップアンテナの構成のアンテナ部6が設けられた基板1は、上側筐体7A及び下側筐体7Bからなる筐体に収納される。上側筐体7Aには、液晶ディスプレイユニット3を筐体外部に露呈させるための開口8A、キーパッド4の各キーを筐体外部に露呈させるための開口8B、8B、8B、…、スピーカ2から音声を外部に出力させるための開口8Cが設けられる。基板1を上側筐体7A及び下側筐体7Bからなる筐体に収納すると、開口8Aにより液晶ディスプレイユニット3が筐体外部に露呈されてユーザが視認できるようになり、開口8B、8B、8B、…によりキーパッド4の各キーが外部に露呈されてユーザがキー操作を行なえるようになり、開口8Cにより、スピーカ2からの音声が外部に出力されてユーザが音声を聞くことができるようになる。

【0025】上述のように、この発明の実施の形態では、基板1により構成される接地導体板11と、この接地導体板11に対向して平行に配置された導体板12と、導体板12の一方の端辺部と接地導体板11とを短絡する短絡垂直導体板13と、この導体板12に対向して平行に配置された放射導体板14と、この放射導体板14の一方の端辺部と導体板12とを短絡する短絡垂直導体板15と、放射導体板14の側縁部の所定の位置に設けられた給電ピン16とにより、片側短絡型マイクロストリップアンテナが構成される。

【0026】通常、片側短絡マイクロストリップアンテナでは、伝送路の接地側が接地導体板、すなわち、基板1の接地パターンに接続されている。そして、この接地パターンは、筐体7A及び7Bに接続されている。そのため、筐体7A及び7B中をアンテナ電流が流れる。使用時には、筐体7A及び7Bがユーザの頭部に非常に近接される。このとき、筐体7A及び7Bに多くのアンテナ電流が流れると、人体方向への放射が強くなり、人体

の吸収損失が大きくなる。

【0027】これに対して、この発明の第1の実施の形態では、接地導体板11に対して平行に設けられた導体板12上に、放射導体板14が導体板12に対して平行に設けられる。このように、導体板12を設けると、導体中を流れるアンテナ電流が減少され、人体方向への放射が少なくなり、人体の吸収損失を減少できる。

【0028】なお、この導体部12の長さWLがどのくらいが最適であるかについて、本願発明者は、実験やシミュレーションを行なった。その結果、導電部12の長さWLを $\lambda/4$ (λ は波長)としたときに、導体中を流れるアンテナ電流が最も減少され、放射効率が最も向上することが分かった。これは、導体板12の長さWLを $\lambda/4$ とすると、この導体板12が電流の定在波の節になるため、漏れ電流が防止されると考えられる。実際にには、マイクロストリップアンテナの形状や給電点のインピーダンス等の影響を受けるため、導体板12の長さWLは必ずしも $\lambda/4$ が最適であるとは限らない。

【0029】また、この発明の第1の実施の形態では、図1Bに示すように、導体板12と短絡垂直導体板13が基板1の他方の面1B側に配設されている。基板1の他方の面1Bにおいてアンテナ部6が設けられる位置には、基板1の一方の面1A側では、スピーカ2、液晶ディスプレイ3、キーパッド4等のユーザが直接的に入/出力操作するような部品が配設される。このため、機器が大型化することはない。

【0030】特に、アンテナ電流の漏洩を抑圧するための導体板12を含めて、アンテナ部6を構成する部品全てが基板1の他方の面1Bに設けられていることが重要である。すなわち、アンテナ電流の漏洩を抑圧するための導体板12を、基板1を挟んで反対側の面1A側に設ける構成とすることも考えられる。ところが、このようにすると、基板1の一方の面1A側に、スピーカ2、液晶ディスプレイ3、キーパッド4等のユーザが直接的に入/出力操作するような部品が配設できなくなってしまい、機器が大型化してしまう。この実施の形態では、アンテナ部6を構成する部品が全て基板1の他方の面1Bに設けられているため、アンテナ電流の漏洩を抑圧するための導体板12を設けても、小型化の障害とならない。

【0031】また、この発明の実施の形態では、導体板12や放射導体14が基板1の他方の面1Bに設けられるため、ユーザが使用時に、ユーザの頭部と導体板12や放射導体14との間の距離が長くなり、人体による影響を受け難い。

【0032】図4は、この発明の第2の実施の形態を示すものである。この実施の形態では、上述の第1の実施の形態で示した片側短絡マイクロストリップアンテナにおいて、片側短絡マイクロストリップアンテナを構成する接地導体板11と導体板12との間に、高誘電率部材

21を挿入したものである。他の構成については、第1の実施の形態と同様である。

【0033】図5は、この発明の第3の実施の形態を示すものである。この実施の形態は、上述の第1の実施の形態で示した片側短絡マイクロストリップアンテナにおいて、導体板12と放射導体板14との間に、高誘電率部材22を挿入するようにしたものである。他の構成については、第1の実施の形態と同様である。

【0034】図6は、この発明の第4の実施の形態を示すものである。この実施の形態は、上述の第1の実施の形態で示した片側短絡マイクロストリップアンテナにおいて、片側短絡マイクロストリップアンテナを構成する接地導体板11と導体板12との間に高誘電率部材21を挿入すると共に、導体板12と放射導体板14との間に高誘電率部材22を挿入するようにしたものである。他の構成については、第1の実施の形態と同様である。

【0035】上述の第2～第4の実施の形態では、接地導体板11と導体板12との間や、導体板12と放射導体板14との間に高誘電率部材21、22を挿入することにより、アンテナの小型化を図ることができる。高誘電率部材を用いる場合には、導体板や放射導体を誘電率基板上にエッティング等のパターンで形成することができる。

【0036】図7は、この発明の第5の実施の形態を示すものである。上述の第1～第4の実施の形態では、片側短絡マイクロストリップアンテナとされていたが、この実施の形態では、板状逆Fアンテナの構成とされている。接地導体板31と、この接地導体板31に対向して平行に配置された導体板32と、導体板32の一方の端辺部と接地導体板31とを短絡する短絡垂直導体板33と、導体板32に対向して平行に配置された放射導体板34と、この放射導体板34の一方の端辺部と導体板32とを短絡する短絡導体板35と、放射導体板34の側縁部の所定の位置に設けられた給電ビン36とにより、板状逆Fアンテナが構成される。逆Fアンテナでは、短絡導体板35の幅が放射導体板54の辺の長さに比べて狭くなっている。その他の基本的な構成については、上述の第1の実施の形態と同様である。

【0037】図8は、この発明の第6の実施の形態を示すものである。この実施の形態では、上述の第5の実施の形態で示した板状逆Fアンテナにおいて、板状逆Fアンテナを構成する接地導体板31と導体板32との間に、高誘電率部材41を挿入したものである。他の構成については、第5の実施の形態と同様である。

【0038】図9は、この発明の第7の実施の形態を示すものである。この実施の形態は、上述の第5の実施の形態で示した板状逆Fアンテナにおいて、導体板52と放射導体板34との間に、高誘電率部材42を挿入するようにしたものである。他の構成については、第5の実施の形態と同様である。

【0039】図10は、この発明の第8の実施の形態を示すものである。この実施の形態は、上述の第5の実施の形態で示した板状逆Fアンテナにおいて、接地導体板31と導体板32との間に高誘電率部材41を挿入すると共に、導体板32と放射導体板34との間に高誘電率部材42を挿入するようにしたものである。他の構成については、第5の実施の形態と同様である。

【0040】図11は、この発明の第9の実施の形態を示すものである。この実施の形態では、ホイップアンテナの構成とされている。接地導体板51上に、短絡垂直導体板53が垂設される。短絡垂直導体板53の端辺部に、導体板52の一方の端辺部が垂直に固定される。この短絡垂直導体板53により、導体板52が接地導体板51に対して平行に支持される。ホイップアンテナ54が給電点56に接続され、給電点56の接地端は導体板52の上縁部に接続される。

【0041】図12は、この発明の第10の実施の形態を示すものである。この実施の形態は、上述の第9の実施の形態で示したホイップアンテナにおいて、接地導体板51と導体板52との間に、高誘電率部材61を挿入するようにしたものである。他の構成については、第9の実施の形態と同様である。

【0042】以上のように、マイクロストリップアンテナ、板状逆Fアンテナ、ホイップアンテナの例について説明したが、この発明は、この他、ヘリカルアンテナや線状逆Fアンテナ等、他のアンテナにも同様に適用することができる。

【0043】

【発明の効果】この発明によれば、接地導体板に対向して平行に導体板を設け、この導体板と接地導体板とを短絡垂直導体板により短絡し、この導体板に対向して平行に放射導体板を設け、この放射導体板を短絡垂直導体板により導体板に短絡している。このため、片側接地マイクロストリップアンテナや板状逆Fアンテナを構成する場合に、筐体を流れるアンテナ電流が減少し、人体により吸収損失が減少され、放射効率が増加する。

【0044】また、この発明によれば、高誘電率材料を挿入することで、更に小型化を図ることができる。

【0045】また、この発明によれば、接地導体板に対向して平行に配置された導体板を設け、この導体板を短絡垂直導体板で接地導体に短絡し、導体板で線状のアンテナエレメントを給電するしている。このため、ホイップアンテナやヘリカルアンテナを構成する場合に、筐体を流れるアンテナ電流が減少し、人体により吸収損失が減少され、放射効率が増加する。

【0046】また、この発明によれば、基板の一方の面に、ディスプレイやスピーカ、キーパッド等、ユーザにより直接利用される部品を配置し、基板の他方の面にアンテナ部を配置し、このアンテナ部を、接地導体板に対向して平行に導体板を設ける構成とし、この導

11

体板により筐体中を流れるアンテナ電流を抑圧するようとしている。このため、アンテナを構成する部品やアンテナ電流の漏洩を抑圧する部品が、ディスプレイユニットやスピーカ、キーパッド等、ユーザにより直接入出力操作される部品が配置される基板の一方の面に配設されることはなく、小型、軽量化の障壁とならない。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明が適用できる携帯電話無線端末の基板の一方の面及び他方の面の構成を示す平面図である。

【図2】この発明が適用できる携帯電話無線端末におけるアンテナ部の説明に用いる斜視図である。

【図3】この発明の第1の実施の携帯の斜視図である。

【図4】この発明の第2の実施の形態の斜視図である。

【図5】この発明の第3の実施の形態の斜視図である。

【図6】この発明の第4の実施の形態の斜視図である。

【図7】この発明の第5の実施の形態の斜視図である。

【図8】この発明の第6の実施の形態の斜視図である。

【図9】この発明の第7の実施の形態の斜視図である。

12

* 【図10】この発明の第8の実施の形態の斜視図である。

【図11】この発明の第9の実施の形態の斜視図である。

【図12】この発明の第10の実施の形態の斜視図である。

【図13】マイクロストリップアンテナの説明に用いる平面図及び断面図である。

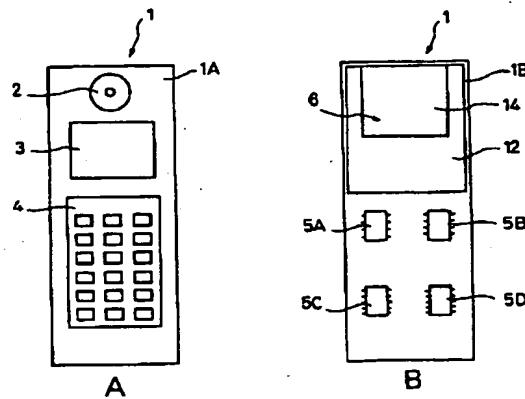
【図14】片側短絡マイクロストリップアンテナの説明に用いる平面図及び断面図である。

【図15】板状逆Fアンテナの説明に用いる平面図及び断面図である。

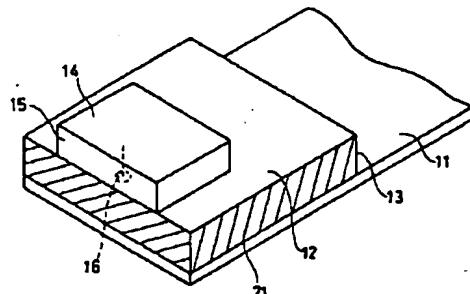
【符号の説明】

1 … 基板, 2 … スピーカ, 3 … 液晶ディスプレイユニット, 11 … 接地導体板, 12 … 導体板, 13, 15 … 短絡垂直導体板, 14 … 放射導体板, 16 … 給電ピン

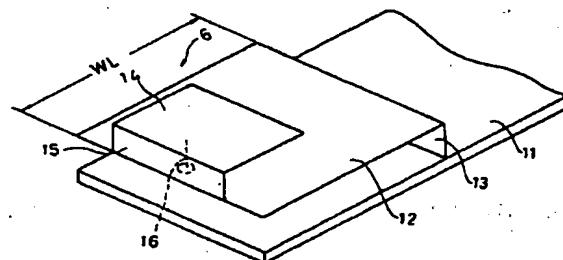
【図1】



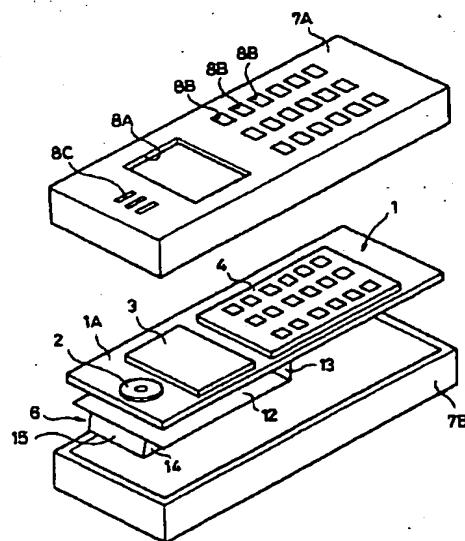
【図4】



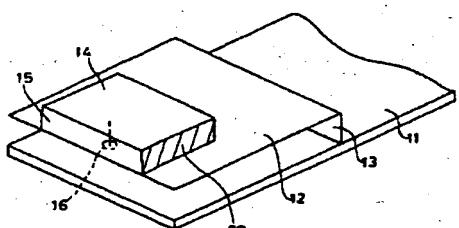
【図2】



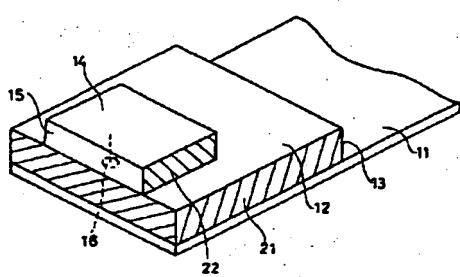
【図3】



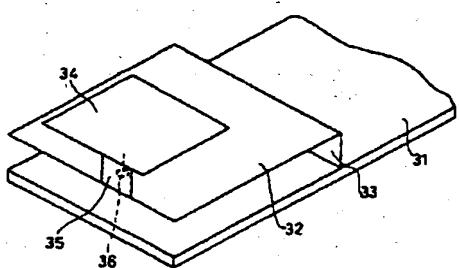
【図5】



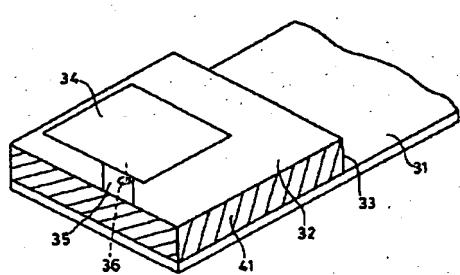
【図6】



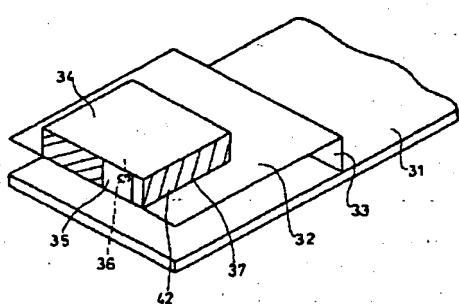
【図7】



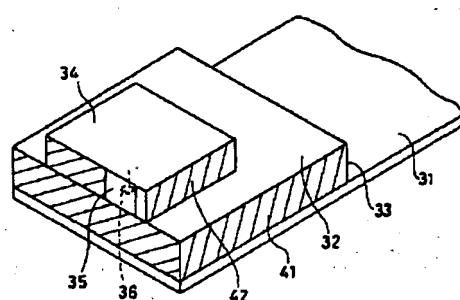
【図8】



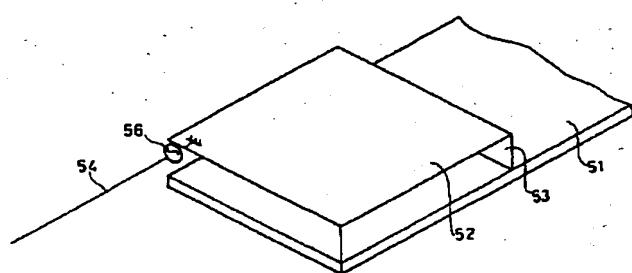
【図9】



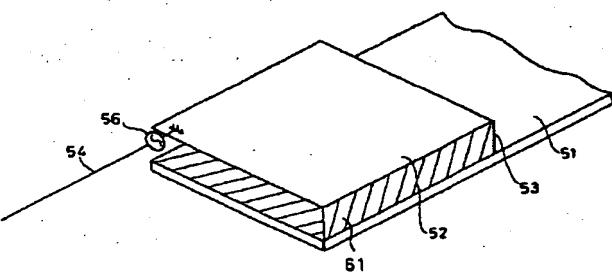
【図10】



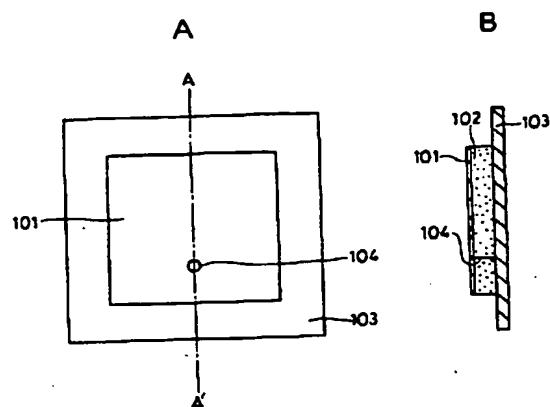
【図11】



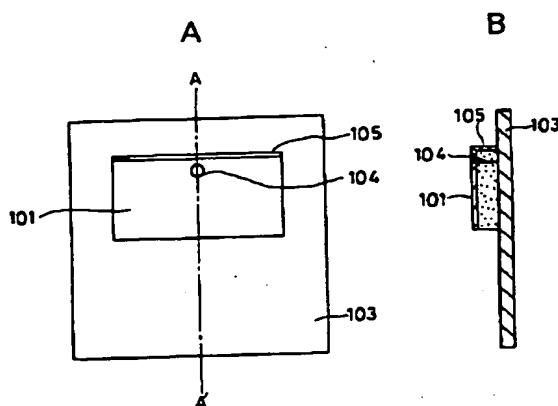
【図12】



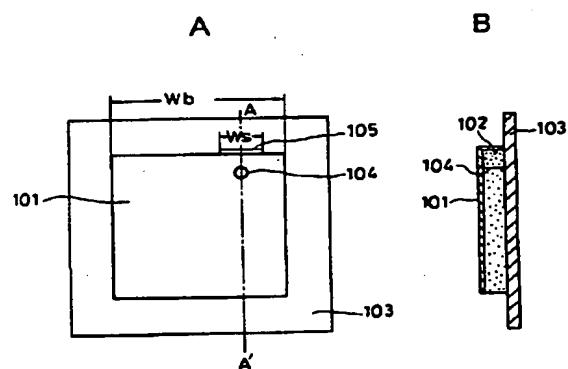
【図13】



【図14】



【図15】



フロントページの続き

(72)発明者 伊藤 博規
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内

Fターム(参考) 5J045 AA07 AA27 DA08 EA07 EA08
FA02 GA02 HA03 LA01 MA04
NA01
5J047 AA04 AA17 AB03 AB13 FB12
FC06 FD01

